

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	富士宮市立 あすなろ園		
○保護者評価実施期間	R6年 11月 18日		～ R6年 11月 29日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	23名	(回答者数) 23名
○従業者評価実施期間	R6年12月 6日		～ R7年 1月 6日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	16名	(回答者数) 16名
○事業者向け自己評価表作成日	R7年 1月 23日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・子どもが元気に登園し、いきいきと生活できる環境が保証されている	・クラス担任が子ども一人ひとりの興味や関心や発達に合わせた遊びを提供している。また、月に一回クラス担任が集って会議をすることで、園庭やプレイルームなどの共有スペースの環境設定についても工夫している	・毎週環境改善のための話し合い等の時間を確保し、適時に工夫できるようにする
2	・職員が連携し、一人ひとりの子どもに合わせた個別支援計画を作成し、確実に子どもの成長の土台を育んでいる	・個別支援計画の作成を児童発達支援管理責任者だけではなく、担任など様々な職員で検討し作成している ・定期的にOT、ST、PTがクラス療育に入り込み、必要な助言を受けている ・家庭連携表を使い、保護者のニーズを確認し個別支援計画の作成に活用している。	・ケース会議を行い、さらに細やかな配慮ができるようにする。また、支援スキルの向上や伝承につなげていく
3	・交流、移行、就学時の引継ぎ等、一人ひとりに合わせた丁寧な移行支援を行っている。	・近隣の保育園や幼稚園との定期的な交流をしている。また、交流ニーズの高い子どもは個人交流をしている。 ・移行時や就学時の引継ぎを丁寧に行い、その後の支援につなげるよう努めている。	・職員が同席し、その場にあった支援を提供し、その後の交流や移行につなげていく。 ・移行後や就学後のフォローについてニーズを把握しながら検討していく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・配置基準以上の人員で支援にあたっているが、手が足りないと感じる(職員が忙しそうに見える)場面がある	・個別対応が必要な場面やあそびの環境設定の中で、保護者対応で慌ただしさを感じさせてしまったように思われる	・子どもの安心安全や、適切な保護者対応ができるよう、全職員で連携して対応していく
2	・保護者同士がつながる機会が少なく、関係性が深まらない。また、卒園後にもつながる機会が提供できていない	・コロナ禍で、それまで月に1回参集できていた保護者会の回数が、年2回となってしまったことが大きな要因と考えられる	・兄弟支援の機会や、保護者同士の交流の場を増やすよう検討している ・保護者のニーズや社会状況を踏まえ、新たな取り組みも検討していく
3	・園の活動などその日にあったこと等を保護者に伝えているが、十分ではない時がある	・送迎時に口頭で伝えているため、連絡帳の記載を減らしている。	・連絡帳の記載の仕方を工夫したり、送迎時の口頭伝達や写真等掲示物の活用をして伝えていく ・ICTの活用を考えている